

メンテナンスサポーター活発化で守る、みんなの道路

岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科 5年
第1使徒 山田雅也 第4使徒 渡辺虹太
第2使徒 長谷川嵐示 第5使徒 今井つかさ
第3使徒 安藤広斗

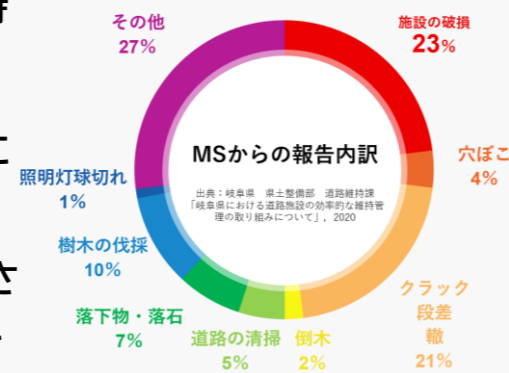
シン・メンテナンスサポーター

メンテナンスサポーター(MS):岐阜県で県民に対し道路や橋梁などの危険箇所の情報提供を求めるシステム。(岐阜高専環境都市工学科2年生から5年生が講習を受けMSとして登録)

現状、課題

MSからの報告内訳を見ると、施設の破損、クラック・段差・轍が多い。一方で、自動車運転時には、歩道の不具合に気づきにくく報告対象となりづらいと思われる。歩道空間の不具合を放置すると歩道利用者の転倒等により重大事故につながる可能性がある。

したがって、歩道利用者の気づきを十分反映させ、歩道空間の不具合を調査、報告、改善することで安全を確保する必要がある。



提案理由

- 岐阜高専生は徒歩や自転車での通学が多い
- 岐阜高専生のMSの活動は十分でない

岐阜高専のMSを活発化させることで、効率的に歩道の危険箇所を発見できる。

MSの活動を授業等に取り入れることで、歩道の異常箇所の報告が活発になり、岐阜高専を中心に安心・安全な歩道が形成されると考える。

効果

岐阜高専を中心として、徐々に調査範囲を拡大していくことで、地域全体の歩道の不具合等が改善されていき、地域として安全な交通ネットワークを形成することができる。

また、この取り組みを学外に広報(リテラシー活動の一環)することによって、一般の方々に社会基盤メンテナンスの重要性を知ってもらう機会を創出できる。

提案内容

ステップ1 現地調査を行い、危険箇所を取りまとめ報告会を行う

ものづくりリテラシー教育実習等*で現地調査を行う

班で危険箇所の特性をまとめる

班ごとにまとめた内容について報告会を行う

問題の大きさや特性の認識を共有する！



*ものづくりリテラシー教育実習：
学科・学年横断の実習活動(卒業要件外の単位として認定される)

ステップ2 報告会を踏まえてフィードバック活動を行う

整理した内容を岐阜県(県土整備部)が運用しているシステムで報告する

成果報告書を作成し学内に展開する

危険箇所が改善されたことが実感でき報告に対するモチベーションが向上！



ステップ3 学外へ広報を兼ねた成果報告を行う

ものづくりリテラシー実習等の一環としてワークショップやブースのようなものをイベントに出展し広報を行う

地域住民に向けて活動の成果を報告する

社会基盤メンテナンスの重要性を知ってもらう機会を創出し意識啓発ができる！

